

MPP.CUT 操作マニュアル

Ver. 1.0 R1

2016 年8月1日発行 S&K Audio

© 2016 S&K Audio

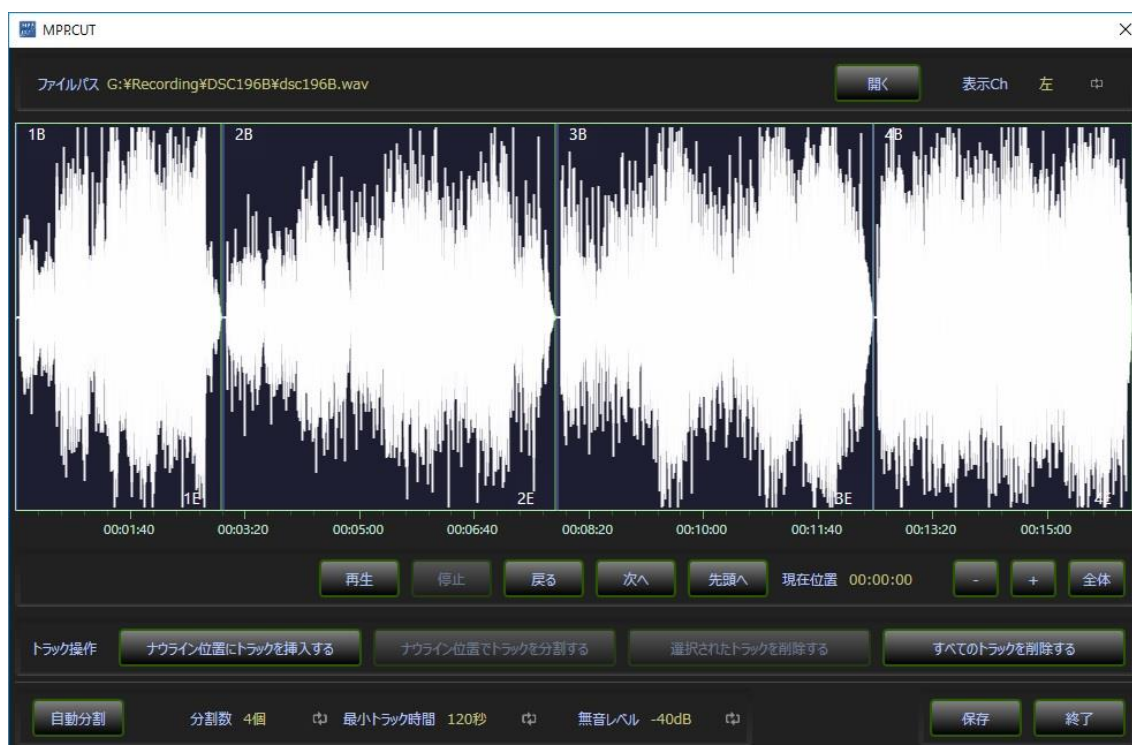
1. MPP.CUT の概要

MPP.CUTはMPP.DSPで録音したWAVファイルを複数のファイルに分割するソフトウェアです。アナログレコードを録音した場合、そのファイルを曲ごとのファイルに分割する作業は思いのほか時間のかかる作業です。一般に表示されるエンベロープのグラフだけで分割することはほとんど困難であり、曲の切れ目と思われるポイント再生しながら分割を行っていくことになります。

MPP.CUTはいくつかの情報をユーザーから受け取ることで、分割ポイントの候補を検出する自動分割機能をもっています。この機能と、通常の探索機能を使うことで、短時間に作業を終わらせることが可能です。

なお、MPP.CUTの音声出力はWindowsの標準音声出力から再生されます。MPP.DSPがインストールされているPCとは異なるPCで分割作業を行うことで、録音しながら分割を行うといった効率の良い作業ができるようになっています。

2. ファイルの選択



画面1

画面1の右上にある“開く”ボタンをクリックすることで、分割したいファイルを指定することができます。MPP.DSPで録音を行うとWAVファイルと一緒に、”.env”という拡張子のファイルが作

成されます。そのファイルをファイルダイアログで指定することで、エンベロープ波形が表示され、編集を開始できます。また、左右のどちらのチャンネルのエンベロープ波形を表示するかは、表示チャンネル横のをクリックすることで切り替えます。

3. 自動分割

録音されたファイルをある程度自動的に分割することで作業の効率化を図ることができます。MPP.CUTの自動分割ツールを使うには以下の3つのパラメータを設定する必要があります。

① 分割数

録音した音源に含まれる曲数です。ツールはこの値の曲数に分割しますので、正しい値である必要があります。レコードのジャケット等を確認して入力してください。

② 最小トラック時間

録音した音源に含まれる曲のなかでもっとも短い曲の長さです。こちらもレコードのジャケット等を確認して秒数を入力してください。

③ 無音レベル

デフォルトでは-20dBとなっています。例えばCDのようにノイズの少ない音源の場合は低めの-40dBといった値を使用します。逆にノイズの多い音源の場合は-15dBといった高めの値を使用します。

以上のパラメータのなかで、①と②の値は音源が決まれば決定できる値なので正確な値を入力してください。③については、音源に合わせて調整して頂く必要があります。

パラメータの設定後「自動分割」というボタンをクリックしてください。エンベロープ波形に、1B、1E、2B、2E・・・といった文字と一緒に曲の範囲が表示されます。ちなみに、1Bは一曲目の始まり(Begin)で1Eは一曲目の終わり(End)という意味を表します。

4. ファイルの再生

再生を行いながら分割ポイント確認する場合の、再生ポイント表す目印としてナウラインがあります。ナウラインはエンベロープ波形上に縦の赤いラインとして表示されます。最初にはファイルの先頭にあり、再生を行うと再生位置に応じて移動しますが、画面上での操作でナウラインを移動させることができます。その方法は以下の通りです。

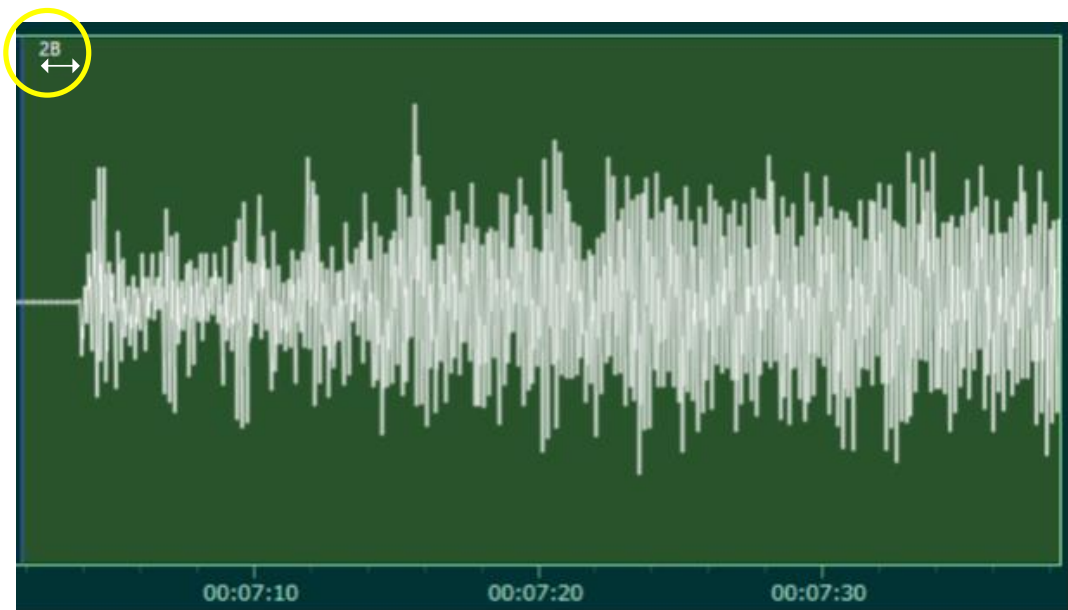
- ① エンベロープ波形の下部にある時間目盛りの部分をマウスでクリックすると、クリックした位置にナウラインが移動します。
- ② “戻る” ボタンをクリックすると前回ナウラインを設定した場所に戻ります。
- ③ “次へ” ボタンをクリックすると、現在の曲の最後もしくは次の曲の先頭に移動します。
- ④ “先頭へ” ボタンをクリックすると曲の先頭に移動します。

5. エンベロープ波形の拡大表示

録音されたファイルの分割作業を行う時に、エンベロープ波形を拡大表示したり表示位置を変更したりする必要があります。拡大・縮小は、エンベロープ波形をクリックしたあとにマウスのホイールを回転させることで操作可能です。エンベロープ波形右下の拡大・縮小ボタンでも同じ操作ができます。また、拡大したエンベロープ波形の表示位置を変更する場合は、エンベロープ波形をマウスでドラッグすることで可能です。

6. 分割したファイルのトリミング

分割された曲の先頭や最後の位置を調整（トリミング）して、針の上げ下げ音などの不要音を取り除く必要があります。曲の始まりと終わりを示す文字、例えば **2B** や **2E** の部分にマウスを移動させるとマウスの表示が ⇄ という形にかわり、マウスでドラッグすることで位置を変更することが可能です。



画面 2

7. 手動分割

自動分割で正しく分割できないファイルは手動で分割する必要があります。

手動分割の手順は、以下の例のようになります。

- ① 全てのトラックを消去する。
- ② ファイルの先頭にナウラインを移動させる。
- ③ ナウライン位置にトラックを挿入する。→ファイル全体がトラック 1 になる。
- ④ 1 曲目と 2 曲目の間にナウラインを設定し、ナウライン位置でトラックを分割する。
- ⑤ 2 曲目と 3 曲目の間にナウラインを設定し、ナウライン位置でトラックを分割する。

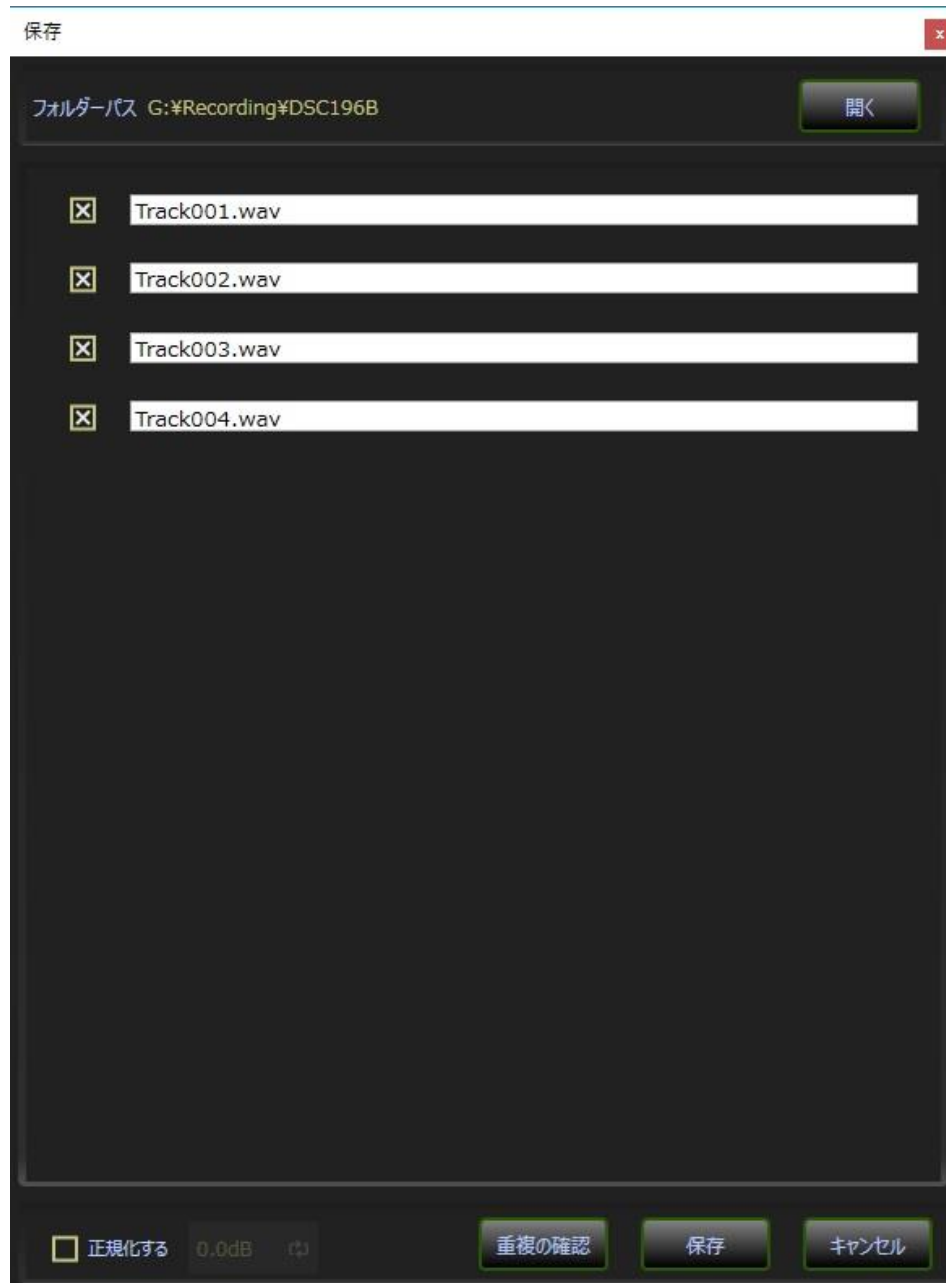
る。

⑥ 分割を繰り返す。

⑦ 最後のトラックは不要なので削除する。

8. ファイルの保存

分割が終了したらそれぞれの曲を別々のファイルとして保存します。“保存” ボタンをクリックすると以下のような画面が現れます。この画面で各トラックの曲名を正しく入力し保存を行います。このリストの中で、チェックマーク ☒ がついたものだけが保存されます。



画面3

画面左下の“正規化する”をチェックすると、ファイル全体にわたってレベルを正規化しながら保存を行うことができます。例えば、正規化レベルとして“-0.5dB”を指定すれば、ファイル全体の中のピーク値が-0.5dBになるように正規化します。

また、画面下の“重複の確認”をクリックすると、既に同じ名前で存在するファイルを探し赤字で表示します。上書きをしたくない場合は、名前を変更してから“保存”ボタンをクリックして下さい。

分割編集のための情報も一緒に保存されます。次に同じファイルを開くと、前回の編集情報をもとに画面が設定されます。

S&K Audio